

2012.08.29

「問責決議可決！早く信を問え、野田総理！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は8月29日です。先程ようやく野田総理に対する問責決議が参議院で可決されました。昨日、自民党、公明党の両党で野田総理に対する問責決議を出していましたので、本日の早い段階で審議がされる予定でした。実は、それより一月前の8月8日に野党7会派が問責を出していました。これは、問責によって消費税増税法案を阻止しよう、という考え方によって出されたわけです。しかし、前のビデオレターで説明しましたように、自民党は問責自体には反対はしませんが、谷垣総裁は3党合意という苦渋の決断をされました。野田総理が近いうちに信を問うと言うのなら、その言葉を信用して我々の責務を果たそうではないか、ということで問責よりも先に消費税増税法案を通したわけです。この社会保障費の増加分の負担を消費税増税という形で国民にお願いすることは自民党自身が兼ねてから主張してきたことです。今まで民主党が消費税増税を主張してこなかったのは事実ですが、国家のために必要であり、政治生命を賭けると野田総理がおっしゃるので、数え切れない罪状がある民主党政権ですが、自民党は消費税増税法案の通過に協力したのです。

ですが、消費税増税という今まで民主党が言ってきたことと違う事をやるのであるから、消費税増税が正しいことであっても国民の信を問うのは当たり前

の話です。近いうちに解散をするという事を確約し、自民党は民主党を信用して消費税増税に協力する、という責務を果たしたということです。消費税増税法案が通過した以上、もう野田総理と話すことはありません。数え上げれば切りがない野田総理の問責理由がありますから、自民党、公明党の両党で問責を出したわけです。ですが、一か月前に7党が出した問責については棚上げにしながらも、昨日に自民党、公明党が出した問責を採決しようというのはおかしい、という理由で本日の問責決議が整わなかったのです。

国会の中で圧倒的多数を占める自民党、公明党という野党第一党、第二党が問責を出すのですから、当然こちら側の問責が優先されるべきです。しかし、そのことについて言い争っているために問責自体が採決できなくなってしまうと、まさに喜ぶのは漁夫の利を得た野田政権ですから、それは避けなければなりません。ぎりぎりの選択をした結果、我々の提案を下ろして7党会派が出した提案を審議することがようやく決まったわけです。今日で問責が決まりましたので、今会期中はもちろん、次の臨時議会が行われても参議院は野田政権をお迎えすることはありません。野田総理が解散をしないで、このまま総理の座に居座り続けることは事実上できなくなります。次の民主党の代表選で代表に選ばれ、臨時議会を開いたとしても我々は一切審議に応じません。そうすると国会を開いて法案を通し、予算を通すことが出来なくなります。野田総理がこの事態を解決しようとするならば総選挙しかないわけです。

ところが、このことをわかりにくいと言う方がいらっしゃいます。今日も地元の新聞記者がそのように言うので、「あなたは何を分かりにくいといっているのか、分かりにくくしているのはあなた方なのだ。」と言いました。我々は3党合意をしたからと言って、別に連立政権を組んだわけではないのです。民主党がマニフェストでは言ってこなかった事であるけれども、社会保障費を賄うための消費税増税が必要だ、と野田総理が政治生命を賭けてお願いしてきたから3党合意をしたのであって、民主党を守るためではありません。国家のために野田総理が命を賭けると言うのであれば、自民党も協力してあげましょう。ですが、民主党が言ってきたことと違う事をするのですから国民に信を問うことはセットなのです。野田総理は政治生命を賭けることと、近いうちに選挙をすることを消費税増税法案の担保にしたわけです。

ところが、例えば民主党の前原政調会長は問責が出されたら3党合意は破棄されたと同じだから、近いうちの解散はないと言っています。こんな馬鹿げたことをよく言います。前原議員の言っていることとマニフェストは同じです。民主党議員はマニフェストで4年間消費税は上げません、と言って選挙に勝ちました。政権を取れば、今度は都合が悪くなり選挙前とは状況が違うから消費税を上げます、と平気で嘘をつきます。民主党は選挙もまだするつもりはありません、と言って延ばしている。そのことを自民党が非難しても、選挙をいつするかを決めるのは総理大臣の専権事項ということで全く無視をしています。

ましてや、民主党が政治生命を賭けると言った、だから我々自民党はそこまで言うのであれば、民主党を信じて協力してあげよう、と言って賛成した消費税増税法案を、問責を出したから反故にするということがあり得ますか。民主党は平気で嘘をついて、有権者は元より国会の中でもまたもや同じことをしているわけです。

そして「自民党議員は人が良いから騙されるのだ」と自民党や谷垣総裁に対して非難をされる方がいらっしゃいます。確かに政治家として甘いと言われればそうかもしれません。それでも何故我々自民党が3党合意という苦渋の選択をしたかと言えば、我々自民党が自分達の党利党略ではなくて、民主党がそこまで国家のためにするというのであれば我々も協力するのは仕方がない、その代わり国民に信を問うべきだ、と考えたからなのです。その責務を果たすために自民党は一人も造反者を出さなかったわけです。衆議院において一人の欠席者を出しただけです。3党合意を全うしました。ところが、与党の民主党の総理が命を賭けると言って出した法案について、民主党はどれだけ刃こぼれが出たでしょうか。造反者が出て、そして今日も造反者によって作られた会派の方々が問責に賛成されています。消費税増税法案が通り問責を出されてしまったから、3党合意は破棄されるものであり解散はしない、ということを平気で民主党の前原政調会長が言っているということは、本当にあってはならないことです。どこまでも自分達民主党の都合のいいように解釈をして、嘘をつき続

けることに恥じることが一つもないのです。私が皆様方に申し上げたいのは、このような正直者が馬鹿を見るようなことはしてはいけない、ということです。私達自民党はあえて、民主党が本当に正直かどうか、野田総理が言っていることに信があるかどうかを試すためにも問責を全うしたわけです。あとは野田総理が誠意を見せる番です。野田総理が言う事を信用して守った谷垣総裁が馬鹿を見てボロ雑巾のようになり、そしてそのボロ雑巾を利用して自分達だけ生き延びていくということは政治のあるべき姿ではありません。そういう意味で我々自民党は馬鹿・愚直に見えるかもしれないけれども、自民党として筋を通していかなければならないし、国民に訴えていかなければならないと思っています。マスコミは我々の理屈を分かりにくいと言っていますけれども、何も分かりにくいことはありません。今回はものすごくまっすぐな気持ちで対応したと思っております。

今日野田総理に対する問責決議を可決しましたので、9月8日までの会期がありますが、この後、野田総理や政府が出してくる法案については一切審議は致しません。けれども、選挙法などいくつか我々が提案しなければならない問題が残っています。これらについては会期の終わる間に通します。特に参議院の場合には選挙制度の定数是正もありますし、議員立法で政府、野田内閣に関係のないものについてはしっかり審議をしていきたいと思っております。

何度も申し上げますが、野田総理が二度と参議院の議会に来ることはできな

いという非常に重い決議が今日の問責でした。

このことについて、是非皆様方にご理解いただきたいと思います。

本日も御覧になって頂きましてありがとうございました。